

# 平成29年度一般会計決算の概要(ポイント)

## 決算の全体像

- ◇歳入は、4,882億円。(対前年度比 + 31億円)
- ◇歳出は、4,839億円。(対前年度比 + 38億円)  
(※翌年度に繰り越す財源 25億円 (対前年度比 △ 7億円))
- ◇実質収支は、18億円。(対前年度比 ± 0億円)
- ◇県の借金である県債残高は、28年度に引き続き、3年連続決算ベースで減少。  
(平成29年度末県債残高 10,501億円 (28年度末 10,616億円) △115億円)

## 歳入の状況

- ◇県税や地方交付税などの増加により、主要な一般財源は、前年度の3,565億円から3,652億円に増加(+87億円)。
- ◇一方で、繰入金(△19億円)、臨時財政対策債を除く県債(△50億円)等が減少し、歳入全体では、31億円の増加。

## 歳出の状況

- ◇義務的経費は、公債費が減少したこと等により、前年度の2,423億円から2,405億円に減少(△18億円)。
- ◇投資的経費は、災害復旧事業費は増加したものの普通建設事業費が減少したことにより、前年度の708億円から647億円に減少(△61億円)。
- ◇一般施策経費は、県税収入の増加に伴う県税交付金等の増等により、前年度の1,670億円から1,787億円に増加(+117億円)。

## 収支の状況

◇歳入・歳出とも、28年度に比べ、それぞれ31億円、38億円増加したものの、翌年度に繰り越す財源が7億円減少したことから、収支額は前年度と同水準。

実質収支 28年度 18億4百万円 → 29年度 18億17百万円  
(+13百万円)

<参考> 県債残高 29年度末 10,501億円 (28年度末 10,616億円 △115億円)  
うち交付税措置がなく県税等で償還する額  
3,774億円 (28年度末 3,873億円 △99億円)  
交付税措置がない県債残高の県税収入に対する割合  
29年度末 3.1倍 (28年度末 3.4倍 △0.3倍)  
財政調整基金の残高  
29年度末 265億円 (28年度末 255億円 +10億円)

## 財政状況の指標 (速報値)

※今後の精査により、数値に異動が生じることがあります。

◇一般会計のほか特別会計等の決算額を含め、財政状況の指標を算定。

◇本県の指標はいずれも基準をクリア。

<資金繰りの状況を表す指標>

指標の種類	H29本県数値	H28本県数値	基準
公営企業等を除く会計の赤字の比率(実質赤字比率)	「－」 (△0.62%)	「－」 (△0.61%)	<3.75%>
全ての会計の赤字の比率(連結実質赤字比率)	「－」 (△7.06%)	「－」 (△6.39%)	<8.75%>
公債費の比重を示す比率(実質公債費比率)	10.5%	11.3%	<25%>

<負債の状況を表す指標>

指標の種類	H29本県数値	H28本県数値	基準
県債残高だけでなく公営企業会計や公社・3セクの負担も含めた、一般会計が将来負担すべき負債の比率(将来負担比率)	157.6%	160.6%	<400%>

※表中、基準欄の数値は、法律により財政健全化計画等の策定が義務付けられる基準